地名散歩
その名からたどる、土地の歴史
熊本

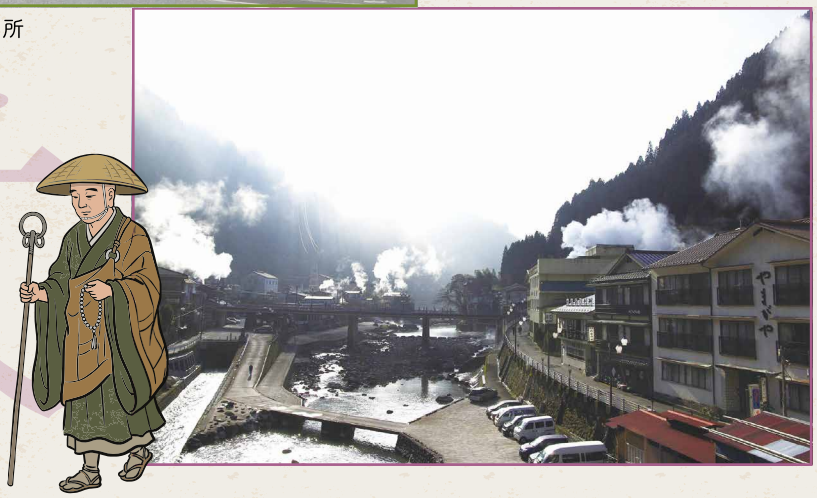
熊本の隈に、杖立温泉の杖
地名に刻まれた土地の記憶

土地の名前には、その土地の風土や歴史、人々の記憶が刻まれています。そんな景色をたずねる「地名散歩」。今回は、熊本の地名を訪ねてみました。

隈

写真提供：熊本城総合事務所

杖



くまモンのキャラクターでもお馴染みの「熊本」。今では当たり前のように使われているこの地名ですが、かつては「隈本」という漢字が使われていたことをご存じでしょうか。

熊本城の前身ともいわれるのが、室町時代に菊池氏の一族・出田秀信が築いた「千葉城」です。その後、千葉城に入った菊池氏の属将が、現在の古城町付近に築いた城の名として、「隈本城」という記録が残されています。

この「隈本」を「熊本」に改めたとされるのが、加藤清正です。関ヶ原の戦いの後、肥後五十二万石を治めることとなった清正は、隈本城が手狭であったため、新たな城を築くことになります。その際、「こざとへんに畏（おそれる、かしこまる）」と書く「隈」の字は、武将の居城にはふさわしくないと考え、勇ましい印象を持つ「熊」の字へ改めたと伝えられています。

人にまつわる物語を宿した地名といえば、阿蘇・小国町にある「杖立温泉」もそのひとつです。

「湯に入りて　病なおれば
すがりし杖立ておいて　帰る諸人」

これは、平安時代にこの地を訪れた弘法大師・空海が、温泉の効能に感銘を受けて詠んだとされる句です。

杖をついて訪れた人々が、帰る頃には杖を忘れて歩いていく――。そんな情景から、「杖立」という地名が生まれたといわれています。

ただ、「杖立」という名前には諸説あり、弘法大師が地面に立てた竹杖から枝葉が芽吹いたという伝承も残されています。さらに、「つえ」という言葉自体が、崖地形を意味する古語に由来するという説もあり、自然地形と人々の信仰が重なり合う、土地の記憶を感じさせます。

地名は単なる呼び名ではなく、その土地に積み重ねられてきた歴史や、人々の暮らしの痕跡そのものなのかもしれません。

参照：熊本地理地名地図の謎（実業之日本社）、杖立温泉観光協会